







WoodyValley

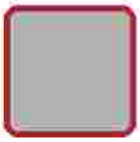
Voyager Plus











WoodyValleyパラグライダーハーネスは3年間保証付きです！！

ウッディーバレーハーネスについてカスタマー登録はがきをお送りいただいたお客様に、3年間保証をさせていただいております。

保証内容　＊通常使用による保証期間　：　3年
　＊クラッシュを含む使用状況を問わない保証期間　：　1年
　パーツ代や交換品については実費となります）
保障対象外パーツ　下記のパーツ及び部分については保証外・実費修理となります。）
　＊ポッドハーネスのつま先部分　地面との摩耗部分
　＊ネオプレーンゴム部分
　＊ジッパー
　＊超軽量ポッドハーネス X-Alps の頭部インフレーション部分
　＊ハーネス本体以外の部品　カラビナ・プロテクション・成形用アクリル板　レキサン）・フットバー等
修理に際しての往復送料については、お客様負担とさせていただきます。

㈱SPORTS OPA KITE
メンテナンス部　〒315-0101 茨城県石岡市大増 1900
TEL:0299-44-3642　FAX:0299-44-3939
E-MAIL:itajiki@opa.co.jp

INDEX

THANK YOU！

この度はウッディーバレー社の製品をお買い上げいただき、ありがとうございます。この取扱説明書には重要な内容は記載されていますので、よく読んでください。特に最重要の 2点について御注意ください。

緊急パラシュートの装填

あなたは緊急パラシュートによって命を救われるかも知れないのです。それは 2日後に起きる事もあり得るし 2年後かも知れません。いざと言うときに確実に役立つように取り扱いましょう。

ハーネスの調整

ハーネスはパラグライダーとパイロットをつなげる道具であり、フライトの楽しさと性能を最高に引き出すことのできる大切な存在です。出来の悪いハーネスでも最高の調整がなされていれば良いフライトを楽しむことが出来ます。しかしどんなに良いハーネスでも調整が悪いと飛べたものではないのです。

このハーネスによってパイロットの皆様が、快適に飛び、楽にコントロールし、性能を引き出し、フライトの喜びを存分に味わえるようになることを確信しています。取扱説明書を読むのは退屈な作業かも知れませんが、パラグライダーハーネスは身近な家電製品などとは違います。正しい使用方法を理解していただいて事故のリスクを減らしてください。この取扱説明書には、あなたのハーネスの組立、調整、飛行、収納に必要な情報が全て入っています。自分の装備について漏れのない知識を持つことによって、パイロットの安全と飛行レベルは確実に向上します。

セーフティー ノート～安全に関するお知らせ

ウッディバレー社のパラグライダー機材を購入していただくに当たって、購入者は適切なパイロット技量を認定されたパラグライダーパイロットであることを自ら認め、負傷ないし死亡を含むパラグライダー活動に伴う全ての危険性を引き受けられたものとします。ウッディバレー社のパラグライダー機材の不正確あるいは不適切な使用はこれらの危険性を高めます。いかなる場合においても、ウッディバレー社およびウッディバレー社製品取り扱い店は、ウッディバレー社のパラグライダー機材使用に関連したパイロット本人あるいは第三者の負傷、あるいはいかなるタイプの損失についても、責任を持つものではありません。ウッディバレー社のパラグライダー機材の使用に関してのお尋ねは、まずご購入先かあなたの国の輸入店までお願いいたします。

Woody Valley

危険・警告
1） 安全に正しくお使いになるために、ご使用前に必ずこの取り扱い説明書を最後までよくお読みになった上で、指示内容を守ってお使い下さい。
2） 本ハーネスはパラグライダー専用ハーネスです。その他の目的で使用しないでください。
3） 本ハーネスは改善等の為、予告なしに仕様・価格等を変更する場合があります。

１－　一般情報

この装備に含まれるのは：

ハーネスポリカーボネイト座板
カラビナ２個
緊急パラシュート開傘ハンドル
緊急パラシュートコンテナ閉鎖用バンジーループ（予備２個）

オプション：　スピードバーリラックスバー
フロントバラストコンテナ
レッグカバー

１－１　コンセプト

ボイジャープラスは、パイロットの皆様からの声に応えてウッディーバレー社が独自に開発した製品です。この超軽量ハーネスは多くのパイロットにとって最高の製品ですが、特にテイクオフへのハイク＆フライを楽しむパイロットにとって理想的なハーネスになっています。
ボイジャープラスは地上での移動を考慮し、最高の快適性、シンプルさ、軽量を念頭に設計された、扱いやすいハーネスです。

１－２ボイジャープラスのプロテクションシステム

エアバッグによって衝撃への十分な防護を提供しています。そして、離陸時などエアバッグが完全に膨らんでいない状態でも、半剛体コンパートメントによる特殊構造によって全防護の６０～７０％は確保されています。
胸ベルトと足ベルトは「Ｔロック」セーフティーシステムによって繋げられていて、足ベルト閉め忘れによるパイロットのハーネスからの脱落を防いでいます。

１－３　ＳＯＳラベル

赤字に白文字のとても目立つＳＯＳラベルが、右肩ベルトのパッドのポケットに入っています。すぐに取り出せますが、脱落しないようにハーネスにつながっています。このＳＯＳラベルの裏側に、事故の際に救急隊員に必要と思われるパイロットの情報を記入しておくことができます。

２－　ハーネス使用の前に

ボイジャープラスは、パイロットを担当するインストラクターなどの、認証を受けているパラグライダーの専門家によって組み立てられなければなりません。特に緊急パラシュートのハーネスへの装填は、正しく行われるよう、充分な技能と注意が要求されます。適切なパラシュートの装填を受けた後にのみ、ハーネスの調整を行ってください。

２－１　緊急パラシュート

ボイジャープラスには緊急パラシュートのコンテナは付属しておらず、オプション設定で用意されています。コンテナの装備位置はパイロット前面のフロントです。このコンテナは充分な大きさを持ち、現在の市場で出されている緊急パラシュートのほとんどに対応しています。コンテナのブライダルはハーネスに対して２箇所、パイロットの肩の高さで接続されており、このことで開傘時の荷重配分とパイロットの着地姿勢を確実にして、着地時に負傷する可能性を最小限に減らしています。このコンテナのブライダルのパラシュート側のエンドは、コーデュラ５００生地のカバーで補強された赤色の大きなループになっています。このループの端にはベルクロがついていて、緊急パラシュート側のブライダルとの結束が緩まないよう保持してくれます。

２．１．１－　レスキューハンドルのデプロイメントバッグへの取り付け
ボイジャープラスには、緊急パラシュート引き出し用のハンドルが付属しています。このハンドルの識別番号は６番で、そのほかのハンドルの使用は出来ません。ハンドルについている黒いループをデプロイメントバッグのループに通し、この黒いループの中にハンドル本体を通してから引き絞って、ハンドルを取り付けます。緊急パラシュートの引き出しを確実にするためには、緊急パラシュートの中心よりも引き出し口側の中心線上の位置でハンドルのループをデプロイメントバッグへ取り付けてください。もしも使用するデプロイメントバッグの取り付けループが適切な位置になかったら、緊急パラシュートをお買い求めになった販売店と相談してください。

２．１．２－　緊急パラシュートのハーネスへの取り付け
緊急パラシュート側のブライダルをハーネス側のブライダルへ接続するには、３つの方法があります。

接続方法その１
2,000kg 以上の破壊強度を持つねじロック型のカラビナを使用する方法。この場合、ブライダルに対してカラビナが回って横を向かないよう、ゴムバンドを用いて、ブライダルがずれないよう固定します。カラビナのねじロックはしっかりと締め、緩んできて開くことのないようにしてください。この方法は次に述べる方法よりも高い開傘ショックに耐え、最もお勧めできる接続方法です。

接続方法その２
まず緊急パラシュート側のブライダルの端のループの中にハーネス側のブライダルを通し、つぎに緊急パラシュート本体をこのハーネス側のブライダル端の大きなループの中にくぐらせていき、２つのブライダルを引き絞って接続する方法。開傘ショックで合成繊維製のブライダル同士で摩擦が発生して破壊しないよう、出来るだけしっかりと引き絞ってください。そのうえで、結束部が緩んでこないよう、ハーネス側のブライダルについているベルクロで結束部を縛ってください。

接続方法その３
もし御使用の緊急パラシュートが操縦可能なもので２本ブライダルをもっているか、いずれにしても２本ライザーブライダルを装備しているものでしたら、肩ベルトの近くにあるハーネス側のブライダルの付根にある２つのループへ接続することが出来ます。この場合、ハーネス側のブライダルは、使用しないので、折りたたんで２本のゴムバンドで縛り、パイロットの首の後ろにあるカバーの下に収納してください。
２箇所のブライダル接続にはそれぞれ 1,400kg 以上の破壊強度を持つねじロック型カラビナを使用してください。また、緊急パラシュートのブライダルの長さが、開傘作業での緊急パラシュート引き出し時にも充分な長さを持ち、パラシュートをコンテナから引き出すさいに間違って途中でパラシュートが開傘しないか、をチェックすることが重要です。
重要：
横方向の異常な荷重負担を避けるため、どちらか１つのループだけでなく、ブライダルは必ず肩ベルトの２つのループへそれぞれ接続してください。

２．１．３　緊急パラシュートのボイジャープラスへの装填
緊急パラシュートをボイジャープラスへ装入するさいは、引き出しハンドルが外から見えていて、ハンドルが外側を向き、ハンドルの取り付けループが上を向くようにしてください。





後の作業が楽になるように、セーフティーピンどめ用の付属のバンジーループの中に細いヒモ（パラグライダーのロワーラインなど）を通しておきます。
このヒモとバンジーループをハーネスパラシュートコンテナのフラップのハトメ穴で一番小さなものに通し、以下の写真の順番でフラップを閉じていってください。





ハンドルについているメタルピンを、透明カバーの下のハトメ穴から引き出したバンジーループの中へ差し込みます。メタルピンが差さったら、バンジーループ引き出しに使った細ヒモをはずしますが、このときバンジーを摩擦で傷めないように注意深くゆっくりと引き抜いていってください。（ヒモをメタルピンの下側に回してから抜くと良いでしょう。）最後に、伸縮カバーがハンドルの上になっているようにしてください。

重要：
緊急パラシュートとハーネスあるいは外部取付けコンテナとの初めての組み合わせの場合は、必ず公認のハーネスあるいは緊急パラシュートのディーラー、あるいはパラグライダーインストラクターによってチェックしてもらってください。通常の飛行姿勢からの緊急パラシュートの開傘操作では、何らの支障無くスムーズに行なえなければなりません。

２．１．４　緊急パラシュート開傘操作
緊急時にすぐに確実にハンドルを握れるよう、普段のフライト中に定期的にパラシュートハンドルを触ってその位置を憶えておくことはとても重要です。
緊急時の開傘手順は以下の通りです。

緊急パラシュートハンドルを見て、片手でしっかりと掴む。
外側に向かってハンドルを引き、ハーネスコンテナから緊急パラシュートを引き出す。
障害物のない空間を確認し、連続した動きで緊急パラシュートをパイロットおよびパラグライダーから離れた方向へ投げる。
緊急パラシュートが開いたら、機体をつぶしてパラシュートに絡まないようにするために、少なくとも１本のＤライン、あるいはブレークラインを掴んでパラグライダーを引き込む。
着地時には、負傷のリスクを出来るだけ減らすために、体を起こしておき、ＰＬＦ（５点接地パラシュートランディングフォール）が行なえるようにする。

２－２　ハーネス調整
ボイジャープラスには多くの調整方法が設定されていて、最適のポジションに調整できるようになっています。この調整にはそれほど多くの時間はかかりませんが、フライト中の快適さは大きく変わってきます。
まず緊急パラシュートを装填してから調整作業を行なってください。
最適の調整を得るためには、適切なシミュレーターからぶら下がり、飛行時と同じ装備･収納品を再現して飛行時と同じ条件･ポジションでチェックしてください。

２．２．１　シッティングポジションの調整
調整はまず太股と背中の間の角度（座板の深さ）から始めます。この角度は下の写真の横調整ベルトを使って９０度から１３０度の間で変更できます。この横ベルトはシッティング角度の調整のほか、長時間のフライトでは脚のサポートの役目も果たしています。




２．２．２　バックポジション調整
ハーネスサイドの上の方にある調整バックルを使ってハーネスバックを調整することで、飛行中のパイロットの上体がどれだけ後へ傾くかを調整できます。グライダー操作に適した適切なフライトポジションでは、パイロットの顔の前およそ１５ｃｍくらいのところに２個のメインカラビナを結ぶ仮想線が来ます。




２．２．３　肩ベルト調整
肩ベルト調整によってハーネスをパイロットの身長に合わせていきます。この調整バックルは下の方の、座板の後端近くにあります。肩ベルトはパイロット上体の重さの一部も支え、居住性に寄与しています。




２．２．４　胸ベルト調整
胸ストラップで２つのカラビナ間の距離を調整します。調整幅は３７～４８ｃｍです。胸ストラップが短く、きついほど安定性が高くなります。カラビナ間の距離を広げ過ぎてもパラグライダーの操作性は向上しません。また、狭くし過ぎた場合、非対称つぶれからのツイスト傾向を悪化させる恐れがあります。




肩ベルトのパッド部の下の方に取付け式の細い伸縮ベルトが付いていて、離陸走行時に肩ベルトがパイロットの肩から外れるのを防げます。またベルトの接続クリップが、緊急時に役立つ便利なホイッスルになっています。

２．２．５　脚ベルト調整

脚ベルトが比較的高い位置へ取り付けられているおかげで、パイロットにとって太股の動きに大きな自由が得られました。通常はメーカー出荷のオリジナル調整で問題ないはずですが、もしシミュレータでチェックしてみて手を使わずに離陸時のシッティングポジションへの移行ができない場合は、座板の角度をチェックしたうえで脚ベルトの調整を行なってください。

重要：調整は必ず左右均等に行ってください。

３－　ボイジャープラスでの飛行

３－１　プレフライトチェック

安全性を最大限確保するために、プレフライトチェックは完全で漏れのない手順で、毎回フライトごとに行なってください。
確認事項：
・全てのバックルが正しく閉まっているか。氷や雪などの障害物が挟まっていないか。必ず氷や雪を拭ってからバックルを閉めること。
・緊急パラシュートのハンドルが正しい位置に止まっていてセーフティーピンがしっかりと差し込まれているか。
・ポケットやジッパーが開いていないか。
・パラグライダーがハーネスに正しく接続されているか。２個のカラビナが本来のロックシステムどおりに正しくロックされ閉じているか。
・スピードバーがパラグライダーに正しく取り付けられているか。

３－２　ポケット

リュックサックモードでは、左側に大きなメッシュポケットが付いています。またセンタージッパーの左右に細身のポケットが付き、トレッキングポールを収納できます。ポールを収納するさいはリュックサックを傷めないよう、先端を上に向けてください。このポケットはリュックサックをひっくり返したハーネスモードでもポールを収納できます。パイロットの腹回りには左右に小さなポケットがあり、右側はジッパーで閉じ、左側はメッシュ になっています。さらにリュックサックのキャリングベルトの上にもポケットがあり、その中に製造番号などを記載したラベルが付けられています。ハーネスモードでは、パイロットの背中を守るエアバッグでもあるリアリュックサックの収納空間のほか、飛行中にアクセス可能なポケットが左右にあり、ひとつはメッシュ、もうひとつはジッパーつきで飛行中に中身が脱落しないように設計されています。

３－３　タンデムフライト

ボイジャープラスでのタンデムフライトはお勧め出来ません。前方のパッセンジャーがエアバッグへの空気の流入を妨げ、エアバッグのプロテクション機能を低下させるためです。

３－４　水上フライト

ボイジャープラスで水上をフライトすることはお勧め出来ません。万が一の着水時にエアバッグが浮いてしまってパイロットが水中へ押さえつけられる可能性があるからです。もし水上を飛ぶ可能性がある場合は、適切なフライトジャケットを使用してください。

３－５　トウブライダル接続

ボイジャープラスはトーイングによる離陸に使用できます。トーイング用ブライダルリリースは２個のメインカラビナに直接接続し、カラビナの開閉ゲートが後ろ側に来ていることを確認してください。それ以上の詳細については、トーイングリリース付属の説明書を読むかフライトエリアにいるトーイングの資格を持ったインストラクターに尋ねてください。

３－６　ランディング
ランディングの前に座板から足をずらせて出して立ち上がり、スタンディング ポジションをとっておきます。決して座った姿勢では着陸しないで下さい。高レベルのパッシブ プロテクションとなるエアバッグ バック プロテクションを装備しているとは言え、これはパイロットの背骨にとってとても危険なことです。ランディング前に確実にスタンディング ポジションをとっておくことは、アクティブ セーフティーの事前準備であり、事故が発生してからの受身のパッシブ プロテクションに比べて、はるかに有効です。

４－　ハーネスの収納～リュックサックモード

ハーネスモードからリュックサックモードのへの変換は、ハーネスの背部にある長いジッパーを完全に開けて、ベルトやバックルが挟まれないように全て外に出しながら座板をハーネスの背中部に向かってたたみます。リュックサックの生地を表裏にひっくり返し、ハーネス本体がリュックサックに覆われてその中に入るようにします。エアバッグのインフレーションバルブ周りのパッド素材部分に強い折り目が付かないように注意してください。何回も収納しているうちに折り目がクセになって残ると、バルブ機能を損ねる可能性があるからです。パラグライダーを丁寧にたたみ、リュックサックの中に入れてください。

パラグライダーを入れた後もリュックサックの中では上部にヘルメット･計器類・衣類を収納するのに充分なスペースが残ります。全ての収納が完了した後、必要に応じて４本のパッキングベルトをしっかり絞り収納物がズレないようにすることができます。こうして荷重が安定するとリュックサックを担ぐのが楽になります。リュックサックの肩ベルトの調整も同様の役割があります。





フライト準備はまず上記の収納手順を逆順で始めます。ハーネスを着る前に背中のジッパーが完全に閉じていることを確認してください。ジッパーが開いていても、エアバッグ部とリュックサック部との間の隙間の設計は、下にある本来のエアバッグが常に機能するようになっていますが、ジッパーが閉じていればリュックサック部も背中を守るエアバッグの機能をより発揮できます。もし運搬時にリュックサックを縛るパッキングベルトを使用していたら、飛行時に背中のリュックサック兼エアバッグがキレイに膨らむよう、忘れずにパッキングベルトは緩めておいてください。






５－　オプション装備の内容と取り付け

５－１　スピードシステムの取り付け

最適なシッティングポジションに調整できたら、アクセレーターの調整を行ないます。このハーネスは通常タイプのスピードシステムアクセレーターなら全て装着可能です。

座板の前にはスピードバーを保持するゴムヒモがあり、緊急パラシュート開傘時に緊急パラシュートハンドルがスピードシステムに絡むのを防いでいます。スピードバーのラインはまず座板の前のゴムヒモに付いているリングの中を通し、座板の前の角の近くにある穴からハーネスの中に入り、そこから座板の後ろの角の近くにあるプーリーを通ったらそのまま上へ伸ばしてパラグライダーのライザーへ接続します。

スピードバーの調整を正確に行うには、シミュレーターにぶら下がってパラグライダーのライザーを接続し、他の人にライザーを持ち上げてもらって、スピードバーのラインの長さを調整してください。足を離したときにフットレストがハーネス前部の下１０ｃm以内にくるようにしてください。ヒモを短くし過ぎるとスピードシステムが常に引かれた状態になり、飛行中に意図せずにスピードシステムが作動してしまう恐れがあります。はじめのフライトではスピードバーをやや長めにしておいてフライトごとに少しずつ短くしていくのが安全です。また、調整の際は、左右均等に行うよう注意してください。





５－２　コックピットとフロントバラストの取り付け

ウッディーバレー社のハーネスは、パラシュートコンテナ装備タイプとコックピット一体タイプのハーネスを除いて全て、計器デッキ･マップケース･ウオーターバラスト完備の特製フロントコンテナを装着することが出来ます。この「フロント　バラスト　コンテナ　コックピット」は、カラビナに細ベルトのループを接続して使用します。はずしたカラビナを細ベルトの赤いループ部に通します。カラビナのゲート部が後ろを向くようにしてください。コンテナの両サイドに三角状に縫い付けられているバックル付き細ベルトで、バックルの位置とベルトの長さを変えることで、計器デッキの高さと傾きを調節してください。

５－３　リラックスバー

すでに装着されているタイプ以外にも、全てのウッディーバレー社製ハーネスにリラックスバーを後付け装備することが出来ます。リラックスバーがあれば、パイロットは脚を伸ばした状態で足をサポートに乗せてくつろぐことが出来ます。この飛行姿勢は昔からの脚を垂らしておく姿勢よりもずっと楽と思うパイロットも多いです。リラックスバーの取付けは、リラックスバー付属の取り扱い説明書をご覧下さい。

５－４　レッグカバー

レッグカバーはウッディーバレー社が開発した独自の製品で、素晴らしい居住性と、さらに、防水・透湿の特製カバーによって抜群の保温性と空気抵抗の低減を実現しました。レッグカバーのハーネスへの取付けは、レッグカバー付属の取り扱い説明書をご覧下さい。

６－　メンテナンスと修理

衝撃が加わったとき、着陸あるいは離陸に失敗したとき、あるいは損傷や顕著な消耗が見受けられたときは、ハーネスを点検してください。特にエアバッグのバルブとカバーは上記のような衝撃のほかにも定期的にチェックし、完璧な状態であることを確認してください。そして、ハーネスは２年に１度、販売者に点検してもらってください。また、２年に１度メインカラビナを交換してください。
ハーネスの不要な損耗･劣化を防ぐために、地面や石、ザラザラした場所でハーネスを引きずる事は極力避けてください。本来のフライト活動以外に紫外線（直射日光）が不必要に当たらないようにしてください。できるだけ湿気や高温からハーネスを守ってあげてください。
パラグライダー機材は全て、涼しく乾燥した場所で保管し、濡れたり湿気を含んだままでは放置しないで下さい。
ハーネスはできるだけキレイに保ち、定期的にプラスティック ブラシや絞った雑巾で土を落としてください。汚れがひどい場合は、中性洗剤と水で洗い、直射日光を避けて風通しの良い場所で自然乾燥させてください。
ジッパーは常に清潔に保ち、定期的に乾式シリコンスプレーで潤滑を保ってください。
ハーネスの修理や部品交換はパイロットではなく、ウッディーバレー社またはウッディーバレー社が認定した専門家のみが行ないます。ウッディーバレー社またはウッディーバレー社が認定した専門家だけが、認定どおりの製品の正しい機能を保つことの出来る素材と技術を持っているのです。
メンテナンス作業の要望でウッディーバレー社またはウッディーバレー社が認定した専門家へご連絡、発送いただく場合は、リアポケット内の銀色のラベルに記載されている識別番号を全桁、お知らせください。

皆様が、ボイジャープラスによって素晴らしいフライトを楽しまれることを願います！

７－　テクニカルデータ

LTF tested for a maximum load of	120 kg
Distance between karabiner and seat	Size M cm 38; L cm 40; XL cm 42,5
Distance between karabiners (min. max.)	Size M cm 36/50; L cm 38/54; XL cm 38/54
Size of polycarbonate seat, size M	Width 32 cm; depth 35 cm
Size of polycarbonate seat, size L	Width 35 cm; depth 37,5 cm
Size of polycarbonate seat, size XL	Width 37 cm; depth 40,5 cm
Total weight of VOYAGER PLUS, size L, complete with reserve parachute handle and karabiners	3,95 kg
Type of protection	AIRBAG protection
Type of straps	T-LOCK safety system
Certification	LTF 35/03 & EN 1651
Reserve parachute housing	Built-in container under the seat, with lateral handle.

WoodyValley